

令和7年度 学校便り

龍郷町立龍北中学校

荒波

1月号

旅はまだ終わらない

校長 紙屋貴志

新しい年を迎え、校庭に差し込む冬の光の中で、子どもたちの元気な声を聞くたびに、学校という場所の尊さを改めて感じています。

国語の授業で、『竹取物語』や『平家物語』『奥の細道』の冒頭を暗唱した経験をお持ちの方も多いと思います。物語の「はじまりの言葉」は印象に残りやすいものです。しかし、今日はあえて「終わりの言葉」の力についてお伝えしたいと思います。物語は、読み終えた瞬間から、読んだ人の心の中で生き続けるからです。

誇りを貫いて生きた主人公、失われた時間を自分の記憶の中に取り戻した作家、旅の途中で倒れながらも、心は自由に旅を続けた俳人。彼らの物語の終わりは、「形あるものはいつか終わっても、本当に大切なものは消えない」ことを教えてくれます。

本校は、令和9年3月31日に閉校を迎えます。そのことを思うと、子どもたちだけでなく、保護者や地域の皆様の中にも、寂しさや不安を感じておられる方がいらっしゃると思います。しかし、学校がなくなってしまっても、ここで過ごした日々や、友達と励まし合った経験、挑戦して得た自信は、子どもたちの心の中にしっかりと残ります。それは、これから的人生を支える大切な力になります。

アニメ『宝島』の歌に、「ただひとつの あこがれだけは どこのだれにも けせはしない」という一節があります。子どもたちの心の中に、自分なりの夢や目標、「こう生きたい」という思いが育っていれば、どんな時代になっても前を向いて歩んでいくことができます。学校の役割は、その土台づくりにあると感じています。

中島みゆきさんの歌に、「ヘッドライト・テールライト 旅はまだ終わらない」という言葉があります。今、私たちが見ているのは、学校の歩みの「一区切り」を示す光かもしれません。しかしそれは、子どもたち一人一人の新しい人生を照らす光でもあります。

学校という形は変わっても、ここで育った学びと誇りは消えません。子どもたちの旅は、これからも続いていきます。保護者・地域の皆様と力を合わせながら、最後の日まで、そしてその先につながる一日一日を大切に歩んでまいります。

2学期終業式・3学期始業式

12月24日(水)の2学期終業式は、11名の子どもたちの元気な笑顔がそろい、温かな雰囲気の中で迎えることができました。式では、牧龍飛さんが緊張しながらもしっかりととした声で2学期の反省を丁寧に述べることができました。多くの表彰もありました。

続く1月8日(木)の3学期始業式では、山崎寛仁さんが2学期や冬休みを振り返りながら、時折みんなに語りかける場面もあり、堂々とした発表を見せてもらいました。

少人数の学校だからこそ、前に立って話すことはとても緊張することだと思いますが、一人ひとりが代表としての自覚を持ち、落ち着いた態度で臨む姿に、子どもたちの確かな成長を感じることができました。



親子調理実習(家庭教育学級)

12月13日(土)の土曜授業を活用し、親子で郷土料理「鶏飯」の調理実習を行いました。

家庭教育学級長の西田真裕美さんを中心に、保護者の皆様が事前準備を進めてくださいり、当日は3つの班に分かれて、和やかな雰囲気の中で実施することができました。

奄美の御家庭ではおなじみの鶏飯ですが、手間のかかる御馳走であるため、日常的に作る機会は少なく、特にお子さんと一緒に調理することはあまりないとのことでした。そのため、今回の実習は生徒にとっても保護者の皆様にとっても貴重な機会となったようで、大変好評をいただきました。

また、秋名小学校の持久走大会と日程が重なってしまい、御迷惑をおかけしましたが、小学校の行事終了後に試食に参加してくださるなど、多くの方々に御参加いただき、意義深い活動となりました。御協力いただいた保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

ちなみに、味の調整には何人もの方が関わってくださいり、どの班もとてもおいしく仕上がりました。生徒たちも積極的に調理に取り組み、普段は保護者の皆様が何気なくこなしている作業の大変さを実感し、改めて感謝の気持ちを抱く様子が見られました。自分たちで作った鶏飯は、格別だったことでしょう。



龍郷町二十歳のつどい

1月3日(土)、龍郷町の「二十歳のつどい」がりゅうゆう館で行われました。羽織袴や振袖、紬の衣装、真新しいスーツ姿など、華やかな新成人たちの姿に、会場は若さと活気があふれています。

本校卒業生の山崎大成さん(寛仁さんの兄)が、新成人代表として「誓いの言葉」を堂々と述べました。

式後には、本校卒業生の山崎さんと西田纏さん(天明さんの従兄)のお二人に許可をいただき、記念撮影を行いました。本校生の将来の姿を思い描きながら、誇らしい気持ちでシャッターを切りました。

きぱりんしょれ~!



クリスマスミニコンサート

12月23日(火)の昼休みに、本校教諭の山川渚先生と、音楽の非常勤講師・里村直美先生による「クリスマスミニコンサート」が開かれました。

山川先生はトロンボーンを、里村先生はピアノを演奏し、「赤鼻のトナカイ」で会場をクリスマスマード一色にしてもらいました。また、里村先生はクラシックのピアノ曲も数曲披露してくださいり、美しい音色が響き渡りました。生徒の皆さんも一緒に歌ったり、じっくりと聴き入ったりと、心温まるひとときを楽しんでいました。

次回のコンサートの開催が、今から待ち遠しいですね。



2月の主な行事

2(月) 教育相談週間(～6日)

5(木) 授業参観・学年末PTA, PTA執行部会

6(金) 第3回学校評議員会

7(土)～ 学年末テスト全部活停止

12(木), 13(金) 学年末テスト

14(土) 土曜授業

16(月) 夢授業



★私ごとですが、奄美の年末年始を堪能しました。島内のドライブで自然に触れ、三権をいただき、奄美の文化に触れることができました。奄美の「人」と「文化」に感動、感謝です♪(教頭談)

前期学校評価アンケートの結果について

先日実施した学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員対象）の結果をもとに、前期の主な成果と課題をまとめました。皆様の御理解と御協力に感謝申し上げます。なお、報告が遅れましたことをお詫びいたします。

◎ 上かったところ（成果）

1. あいさつや生活習慣の定着

生徒のあいさつや返事の習慣がとてもよく身についており、保護者・教職員からも高く評価されました。責任感を持って行動する姿も見られ、日々の指導の成果が表れています。

2. 地域や家庭とのつながり

保護者の皆様からは、学校が相談に親身に対応している点や、地域と連携した教育活動への取り組みに対して高い評価をいただきました。生徒も地域行事への参加や、郷土の良さを感じる機会が増えているようです。

3. 授業の工夫とわかりやすさ

教職員は、深く考える力を育てる授業づくりに力を入れており、保護者の皆様からも「わかりやすい授業」との声をいただいっています。

※ これからの課題

1. 読書習慣の定着

生徒・保護者・教職員すべてのアンケートで、読書に関する項目が低い評価となりました。本に親しむ機会を増やすことが、今後の大きな課題です。

2. 学校から家庭への情報伝達

「子どもが学校からの配布物をすぐに渡していない」「学校での様子を家庭で話していない」といった声がありました。御家庭との情報共有の方法を見直していきます。

3. 健康的な生活習慣と自己肯定感の育成

早寝・早起き・朝ごはんなどの生活リズムや、自分の良さを認める気持ち（自己肯定感）を育てることが、今後の重点課題です。

4. 学習支援と教職員の働き方

学習につまずいた生徒への支援や、教職員の働き方改革についても、引き続き取り組んでまいります。

5. 御意見

「休日のバスの時刻をもう少し考慮してほしい」との御要望もいただいています。灌水当番などの実施計画について見直し、改善に努めてまいります。

龍北中学校では今後も「よりよい学校づくり」に向けて努力してまいります。

令和7年度前期 学校評価アンケート

龍郷町立龍北中学校

1	生徒	授業では、目標や学習内容を理解しようと集中している。	3.0		11	生徒	自分から進んで相手に伝わるあいさつをしたり、名前を呼ばれたら返事をしたりしている。	3.9
	保護者	学校は、子どもにとってわかりやすい学習指導を行っている。	3.5			保護者	子どもは、自分から進んであいさつをしている。	3.4
	職員	生徒の実態に応じてICTの活用を含む授業設計の工夫をしながら、分かることできる授業の実践に努めている。	3.0			職員	「返事・あいさつ・後始末」を柱とした基本的な生活習慣や態度の育成に努めている。	3.7
2	生徒	授業では、説明したり問題を解いたりするときには、自分の考えを明らかにしている。	2.7		12	生徒	学校（朝読書の時間を含む）や家庭で、1ヶ月に3冊以上の本を読んでいる。	1.9
	保護者	家庭では、子どもの考えを広げたり深めたりする声かけを行っている。	3.1			保護者	家庭では、1ヶ月に3冊以上の本を読む機会を作っている。	1.9
	職員	学習活動では、根拠を持って思考を表現させる場面を設定している。	3.7			職員	自らの読書経験を踏まえ、生徒が進んで読書に取り組むことにつながる指導を行っている。	2.7
3	生徒	授業では、自分の考えを持ち、友達と協力して自ら進んで学んでいる。	2.8		13	生徒	相手のことを考えて発言したり、行動したりしている。	2.7
	保護者	学校は、生徒が自分の考えを持ち、自ら進んで学習するように取り組んでいる。	2.9			保護者	家庭では、子どもが相手のことを考えて発言したり行動したりするように指導している。	3.5
	職員	生徒が自分の考えを持ち、他者と協働しながら自らの学びを深める場面を設定している。	3.3			職員	自らの人権意識を高め、人権尊重の視点に立った指導を行っている。	3.7
4	生徒	授業では、「わかるようになる」や「できるようになる」を意識して、自分の力で課題を解決しようとしている。	2.8		14	生徒	自分には良いところがあると思う。	2.5
	保護者	家庭では、子どもの学習に対する見届けを行っている。	2.9			保護者	家庭では、子どもの生活や学習について、困っていることはないか会話をしている。	2.9
	職員	学習活動では、生徒が見通しを持って目標の達成や問題解決ができるようになる指導を行っている。	3.3			職員	特別支援教育の視点から、生徒や保護者の実態や願いを踏まえた支援を行っている。	3.0
5	生徒	学習して発見した疑問点を、進んで解決しようとしている。	2.7		15	生徒	健康に気を付け、自分の体力に応じた運動を家庭でも行っている。	2.7
	保護者	家庭では、学習して発見した分からないことを、進んで友達や先生に質問させている。	2.7			保護者	子どもは、自分の健康管理や体力増進に努めている。	3.1
	職員	「分からない」「できない」を感じた生徒に対して、学習の方法を指導している。	2.7			職員	生徒の健康管理に気を配り、体力の増進に向けた運動の推進に努めている。	3.0
6	生徒	家庭学習に取り組んでいる。（1年100分、2年110分、3年120分）	2.8		16	生徒	生徒会専門委員会や学級の係活動には、責任を持って取り組んでいる。	2.8
	保護者	子どもは、自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。（1年100分、2年110分、3年120分）	2.9			保護者	家庭では、子どもに家族の一員としての役割を与え、責任を持って取り組めるようにしている。	3.3
	職員	生徒の実態を踏まえた家庭学習の指示を行い、見届けを行っている。	3.0			職員	あらゆる教育活動において、生徒が責任を持って活動する場面づくりに努めている。	3.7
7	生徒	「将来の夢」や「目標」の実現を意識して生活している。	3.0		17	生徒	学校からの保護者への案内や配布物を、すぐに渡している。	2.1
	保護者	家庭では、子どもと「将来の夢」や「目標」について話す機会がある。	3.2			保護者	子どもは、学校からの案内や配布物をすぐに渡したり、学校での様子を保護者に話したりしている。	1.8
	職員	生徒が「将来の夢」や「目標」を意識し行動できる教育環境作りに取り組んでいる。	3.0			職員	学級通信等を通して、家庭への情報提供に努めている。	3.3
8	生徒	あなたのことを認めたり、ほめたりする先生がいる。	3.1		18	生徒	地域の行事等に、積極的に参加しようとしている。	3.2
	保護者	家庭では、子どもが頑張っていることや努力していることを認め、ほめている。	3.1			保護者	学校は、家庭や地域と連携した教育活動に取り組んでいる。	3.6
	職員	生徒の状況を観察し、努力している点やよい点を認め、ほめている。	3.3			職員	家庭や地域との連携を意識した教育活動を状況に応じて行っている。	3.0
9	生徒	困りごとや心配事、悩みを聞いてくれる人がいる。	2.9		19	生徒	自ら考えて正しく判断し、自分から進んで行動しようとしている。	2.5
	保護者	学校は、保護者の相談に親身に対応をしている。	3.6			保護者	子どもは、よりよい生活のために、自分で正しく考え判断し、行動している。	3.2
	職員	生徒や保護者の相談に親身に対応している。	3.3			職員	自ら考えて正しく判断し、主体的に行動することができる生徒の育成に努めている。	3.3
10	生徒	学校での学習活動を通して、郷土の良さ（自然や文化など）を感じている。	3.2		20	生徒	「早寝・早起き・朝ご飯」の取組ができている。	2.6
	保護者	家庭では、郷土の良さ（自然や文化など）について話す機会がある。	3.0			保護者	子どもは、「早寝・早起き・朝ご飯」の取組ができている。	3.2
	職員	郷土に残る自然や文化の豊かさを認識させる郷土教育や環境教育に取り組んでいる。	3.0			職員	定時退校日や出退勤の目標時刻の設定、週2日の部活動休養日等を実践している。	2.7